

Title	「永続する精神」の雲を見上げて：公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の事務所訪問の報告
Author(s)	木村, 美里
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23, No.1, 2013.5 : 2-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4496
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

「永続する精神」の雲を見上げて

— 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の事務所訪問の報告 —

木村 美里

はじめに

前回のNewsletter (22-2号) では、英国の女性社会改良家オクタヴィア・ヒルと英国ナショナル・トラストの関係を明らかにすることを目的とした研究の概要を報告した¹。

本稿ではこの研究過程で2012年11月21日(水)に行った公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会事務所の訪問について報告する。今回の訪問では、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会トラスト推進部長の中安直子氏から貴重なお話を伺うことができ、また、トラスト関連の資料をご提供いただいた。この研究視察の内容は以下の通りである²。

1. 協会について

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会は、「社団法人」という社員の集まりであり、全国のトラスト団体や個人が社員として参加している団体である。協会がセンター組織となり、地域のトラスト団体と協力しながら活動を推進している。英国のトラストが既存の団体に土地の買い取りや管理ができず、活動の限界を感じて創設されたことに対し、日本では先に既存の団体として土地の買い取りを行う団体が地域に誕生し、その団体の限界(法的・財政的側面)からネットワークの役割として協会が誕生したという設立経緯の違いがある。それゆえに協会の役割のひとつは、協会のロゴマークの雲が示す「健康で美しい地球環境を守ってゆく人間の輪」を築くことである。さらに5年前の運営方針の転換を経て現在、土地の買い取りを主体として、広報活動・啓発活動・環境教育などに取り組んでいる³。

2. 協会の活動について

オクタヴィア・ヒルが英国のトラストにてアピール⁴を担当していた経緯から、日本のトラスト運動における啓発活動を中心に協会の活動をご説明いただいた。

(1)活動の特徴

協会の最も重要な特色は、「土地を買い取ることによる環境全体の保護」である。すなわち動物または植物など特定の生物を保護する通常の自然保護とは異なり、土地を取得することでこれらの自然環境を一括して保護できるという点である⁵。

また「環境保護はすべての人のためであり、決して対立するものではない」という考えで活動を行っている。これは環境保護運動が運営方法によって、時として行政、企業または土地所有者との対立を引き起こすためである。それゆえに協会のこの考えは、自然・歴史的環境を保護するために、軋轢を生まず、人々の善意によって行える英国のトラスト運動に通じるといえる⁶。

(2)土地の取得および広報活動について

協会には一般会計とトラスト基金会計の二種類があるが、その中でトラスト基金は土地を買い取るための資金を集める役割を果たす⁷。特に現状では絶滅の危機にある動植物を保護することを目的とした基金を進めており、指定寄付としてトラスト基金へ寄付する人が増加している。

このほか英国のトラストに倣い寄贈・遺贈による土地の取得にも力を入れている。主な例としては、信託銀行との連携が挙げられる。相続セミナーでの活動説明、税金に関する相談、英国のトラストを参考とした寄贈・遺贈に関するパンフレットの作成などが挙げられる。

広報活動では先述の信託銀行支店での展示パネルによる協会の活動紹介と啓発活動、社会貢献活動報告書での活動紹介、ACジャパンの支援を受けてテレビなどを通しての広報活動も行っている。

(3)活動における課題と今後の展望について

当然のことながら先述の活動を行う中で課題も生じる。今回の訪問では主な課題として、広報活動をトラスト運動への参加に結びつけること、取得した土地にかかる税金の非課税などを申請する際の書類の問題、行政における共有の環境理解の必要性などが挙げられた⁸。また今後の協会の展望については現在のプロジェクトを継続・推進し、軌道にのせること、およびトラスト法の整備に向けて活動してゆくとのことであった。

3. 環境教育の視点から

先述の通り環境保護において啓発から実践へとつなげる課題がみられる。しかしながら、実践を強化するためには、その基盤としてやはり環境意識を高めなければならない。したがって、環境教育は主要な啓発活動のひとつといえる。協会事務所への訪問では、中学生の訪問が一番多いとのことである。旅行会社との連携により、修学旅行のプログラムの一貫として事務所訪問が利用されている。トラスト運動を説明する際には、訪問者の住む地域の自然を事前に調査し、具体的な例を挙げて写真を多用しながらイメージしやすい説明を心がけている。またプログラムには英国のトラストの説明、「協会のオリジナルグッズを考えてみよう!」「身近な自然を守るには?」などをテーマにした自主学習的なワークも取り入れられている。

4. 英国ナショナル・トラストとの交流について

協会と英国のトラストとの交流については、人材の派遣または招聘が挙げられる。過去にはボランティア(会員・非会員問わず希望者)を募って英国のトラストへのツアーを企画したほか、全国

大会の際に講演者として英国のトラスト関係者を招聘している。今回その全国大会の報告書をご提供いただいた。報告書の講演記録にはトラストの認識として「人間の造った文化的あるいは文明的なもの」と自然というものは密接な関連があること、特に両方が我々人間に極めて深い関係があるということ⁹が挙げられている。100年以上の時が流れても創設者と変わらない考えに基づいて活動を行っていることに感銘を受ける。そしてこれからの環境を大切にしておくために、トラストの考えが必要不可欠なのだと実感する。

また現在も協会の職員が英国のトラスト本部を視察している。トラスト運動は日本でも多くの場所で展開されるようになったが、英国のトラストの創設についても、一般的にさらなる周知が必要であると考ええる。その意味で協会の試みは、普段日本ではあまり聞けない英国のトラストについて、この団体がどのような精神と経緯で創設されたかを知れる貴重な機会を創出しているといえる。

おわりに

トラスト創設者の1人であるヒルが「永続させるべきものは私たちの運動の精神であって、精神を失った形式ではありません¹⁰」との言葉を遺しているように、トラストの運動には実践とともに精神的基盤が重んじられている。トラストの標語である「for ever for everyone」(永遠に、そしてすべての人々のために)を実現する原動力がここにある。今回の訪問で「日本のトラスト運動で素晴らしい点は何か」と伺ったところ、地域で活動しているトラスト団体の人々が覚悟と信念を持って活動していることを挙げられていた。英国だけではなく、日本においても「永続する精神」があるのだという情熱が伝わってきた。

またヒルによるトラスト運動の周知、アピールの手法(寄付の集め方など)の詳細が本研究で明らかとなった場合は、その結果報告をしてほしいとのことのお話も挙がった。それゆえにヒルとトラスト

の関係の研究する方向性もより明確となってきたように思われる。

日本のトラスト運動が「永続する精神」のもと、さらなる発展を遂げることを願うとともに、日本における環境保護運動の一助となる研究を目指したい。

参考文献

Maurice, Edmund, C., ed. (1913) *Life of Octavia Hill as told in her letters*, London: Macmillan and Co.

社団法人日本ナショナル・トラスト協会 編『報告書「第23回ナショナル・トラスト全国大会inいいだ 飯田大会の記録」』（第23回ナショナル・トラスト全国大会実行委員会、2006年）

藤田治彦『ナショナル・トラスト—イギリスの自然と文化』（淡交社、1994年）

ベル・E. モバリー『英国住宅物語—ナショナルトラストの創始者オクタヴィア・ヒル伝』（日本経済評論社、2001年）

ほとんどあるいはまったく争うことなく得られていると述べている。C. E. Maurice, ed. *Life of Octavia Hill as told in her letters* (London, 1913), p. 538.

- 7 現在のトラスト基金には、「美しい自然を、残そうトラスト」と「いきものトラスト」の2種類がある。
- 8 現状は書類申請を行えば承認される状況であるが、申請書類の量が膨大で作成にも時間がかかる。そのため、税金を納めることを選択する団体もある。また環境理解の共有面では、トラスト運動の主旨などを説明する際に、環境関連の課と税務関連の課とでは認識の差が生じていることから必要と考えられる。
- 9 社団法人日本ナショナル・トラスト協会 編『報告書「第23回ナショナル・トラスト全国大会inいいだ 飯田大会の記録」』（第23回ナショナル・トラスト全国大会実行委員会、2006年）、19頁。
- 10 ベル、『英国住宅物語—ナショナルトラストの創始者オクタヴィア・ヒル伝』（日本経済評論社、2001年）、284頁。

（きむら・みさと 聖学院大学基礎総合教育部特任助手）

- 1 本研究はJSPS科研費24720040の助成を受けている。聖学院大学総合研究所Newsletter22-2号参照。また以下オクタヴィア・ヒルは「ヒル」、ナショナル・トラストは「トラスト」とする。
- 2 本稿は当日のインタビューとご提供いただいた資料などを参照し、報告している。
- 3 時代とともにニーズも変わり、現在の運営ではトラスト団体のない地域や優先順位の高い、すなわち開発の危機にある地域を支援するため、積極的に自らが行動を起こすという方針に転換している。また協会では自然環境の保護を主体としているため、歴史的建築物などの相談については公益財団法人日本ナショナルトラストと協力している。
- 4 アピールとは世論に広く訴えること。藤田治彦『ナショナル・トラスト—イギリスの自然と文化』1994年131頁。
- 5 協会も特定の絶滅危惧種などを保護対象としてトラスト基金を実施しているが、この基金もその動植物が生息する土地を購入するための寄付体系であるため、結果的に他の環境も保護される。土地の買い取りについては、優先順位などから総合的に判断し、常任理事会において決定する。また理事会でも議事として提示される。
- 6 ヒルはトラストの運動による共有地と遊歩道の成果が、